

生活の足を確保する自動運転の実装

高齢化や人口減少が進行する中で、生活に不可欠な移動手段を確保していくためには、自動運転技術を地域社会に実装していくことが必要であり、特に、高齢化が著しい中山間地域等では、待ったなしの状況にあります。このため、地域の拠点としての道の駅等を活用しながら、路車協調での自動運転の実装を進めています。実装後も、ビジネスモデルの改善や走行時のリスク回避を道路側から支援するシステムなど、さらに利活用や安全性を向上し、持続可能な取り組みとなるよう支援します。

奥永源寺×自動運転

滋賀県
東近江市

【令和3年4月23日～実装開始】

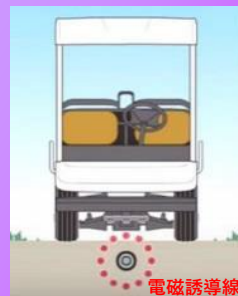
走行ルート

道の駅
「奥永源寺渓流の里」
※多様な機能・役割
・行政機能
・出張診療所
・市場（日曜開催）
・健康イベント等

日枝神社前
黄和田上
キャンプ場
キャンプ場
紅葉尾口
紅葉尾
鏡子ヶ口入口
鏡子ヶ口登山口
年間約1,200人
(登山居者数)

出張診療所等への利用
道の駅朝市への出荷物の配送

自動運転車両の仕組み



路面に敷設した電磁誘導線でカートタイプの車両走行を誘導

太地町×自動運転

和歌山県

【令和4年11月1日～実装開始】

走行ルート

坂野医院
役場前
町で唯一の病院
漁協スーパー前
漁協スーパー横
順心寺前
老人憩いの家
小東町有地
大東町有地
太地小学校
東新集会所

役場→漁協スーパー→病院の拠点を周回